

決算議会 9月 定例会

〈平成18年度の歳出決算〉

63億円の成果を認定

— 収入未済額は、ついに2億円を突破 —
(税金等の滞納など)



平成18年度決算起立採決のようす

平成18年度決算のあらまし

一般会計は約46億1,700万円、特別会計は、国民健康保険など6会計合わせて約17億5,200万円となり、合計63億6,900万円余の歳出決算となりました。17年度と比べて、約2.2パーセントの増加です。これに対して、歳入決算は歳出決算を約3億円上回る、約66億7,100万円となりました。

しかし、一般会計と6特別会計を合わせた収入未済額（税金等の滞納など）については、前年度より約1,800万円増加し、ついに約2億1,600万円にまで拡大しています。町民の負担の公平性を保つためにも、早急な改善が求められます。

(※詳しくは、「広報ひろの10月号」をご覧ください。)

平成19年9月定例会を9月10日から12日までの3日間の会期で開きました。町長から町政全般についての経過報告が述べられるとともに、一般会計および特別会計補正予算案など、14の議案が慎重に審議されたほか、議員発議として「道路特定財源の確保に関する意見書」などが提出され、すべて原案のとおり可決しました。

また、9月定例会は、決算議会でもあり、平成18年度の一般会計および特別会計の7会計を認定しましたが、税金等の滞納などによる収入未済額が増加し、ついに2億円を突破していることから、町税等の収納対策などをめぐり、議員から質問が相次ぎました。

なお、一般質問では、8人の議員が、それぞれ町の対応や考えを問いました。

決算審査の意見

代表監査委員 小貫 春夫 氏



意見を述べる小貫代表監査委員とそれを聞く町長

総括意見

平成18年度の事業については、関係諸帳簿および証拠書類と照合した結果、決算計数は正確であり、適正に執行されたと認めることができる。

審査のむすび

当町の財政状況は、良好な状態が続いていますが、広野火力発電所に係る固定資産税に大きく依存している状況に変わりはなく、これからも続く見通しです。

今後は減少する税収を見据え、効率的な予算執行をはかるために、必要な事業等を見極める必要があります。

また、年々増加している収入未済額の解消に向け、英知を集めて努力されることを望みます。

平成18年度の歳出決算を町民1人あたりに換算すると・・・



町民1人当たりの支出額（使われたお金） 114万円